

平成 30 年度第 11 回価格審査会の開催について

平成 30 年度第 11 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、当財団の価格情報誌の発行前にその掲載価格の妥当性等について、外部の有識者によって審査を行うものです。

開催日時	平成 31 年 2 月 15 日(金) 10 : 00 ~ 11 : 30
場 所	一般財団法人建設物価調査会 会議室
委 員	田中 弘 日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 技師長 関口 司 東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 次長 森田 義則 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長 柳 泰彦 株式会社日本設計 コスト設計部長
当 会	共通資材調査部 部長：大谷 忠広、次長：川野辺 豊、課長：康広 誠己 建築調査部 部長：加納 慎二 監査審査室 室長：後藤 裕 調査統括部(事務局) 部長：鈴木 昌樹、次長：古井戸 宏、課長：菊池 信博

平成 30 年度第 10 回価格審査会議事録(案) 確認

平成 30 年度第 11 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明
<p>1. 「建設物価」3月号、「Web 建設物価」3月号の価格動向</p> <ul style="list-style-type: none">・ 価格が上昇した資材は、伸銅品（全都市）、セメント（バラ）（青森、秋田、山形、広島、大分）、レディーミクストコンクリート（鹿角、鶴岡A・B酒田、横須賀、長野B、諏訪、下呂B、彦根、丹波、広島、尾道、大竹、廿日市）、再生砕石・再生砂（弘前、松本A、高山）、コンクリート型枠用合板（北陸、中部、大阪、中国の各都市）、アスファルト混合物・再生アスファルト混合物（宮古、大船渡、釜石、岩泉）、針葉樹・高木（仙台、東京、名古屋、高松、福岡）、燃料油【軽油ローリー渡し】（東北、関東の各都市）、非鉄スクラップ【銅】（札幌、東京、大阪、広島、高松、福岡）などであることを説明。・ 価格が下落した資材は、異形棒鋼（九州の各都市）、ステンレス鋼（全都市）、レディーミクストコンクリート（仙台）、ストレートアスファルト・アスファルト乳剤（那覇）、燃料油【軽油ローリー渡し】（北海道の各都市、那覇）、鉄スクラップ【鉄】（関東除く各都市）、非鉄スクラップ【アルミ】（全都市）などであることを説明。 <p>2. 注目資材</p> <ul style="list-style-type: none">・ レディーミクストコンクリート【仙台】 <p>3. 比較資料</p> <ul style="list-style-type: none">・ 企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
審議 1	建設物価の調査期間はどのくらいか。	調査期間は1カ月である。月間を通して計画的に調査を実施し、毎月10日までに得られた調査結果を翌月号に掲載している。価格変動の激しい資材ほど、10日に近い日にちで調査をしている。
審議 2	ストレートアスファルトについて、建設物価の掲載価格が3カ月ごとに変動する理由は何か。	石油元売りの仕切価格は原油価格の変動に応じて見直される。しかし、ストアス販売業者は3カ月間で変動した仕入れ価格をまとめたうえ需要家と価格交渉をする商習慣があるため、3カ月ごとに販売価格が見直される。
審議 3	自由勾配側溝は大分市で上伸、下落の両方がみられるが、これは規格によって上伸、下落したということか。	基本的には上伸だが、価格体系を見直したため一部の規格で下落となった。
審議 4	道路用コンクリート製品は作り置きのできる資材である。規格が統一に決まっているのであれば、製造コストが安い工場で製造し現場へ持ち込むようにすると、広範囲な地域で取引ができるのではないか。	各県にコンクリート製品の工場があり各種製品を製造している。取引では輸送コストを含めて販売価格としている。地域内に製造工場が少ない製品であれば隣接県に渡った取引もあるが、重量があり空隙率も高いことから輸送コストが高く、あまり遠くに持ち込むことはできない。
審議 5	道路用コンクリート製品は、掲載している地区の区分をどのような基準で決めているのか。	都市単位の掲載が基本だが、資材によっては、関東、近畿などブロック単位で掲載しているものもある。
審議 6	H形鋼はオリンピック関連需要がピークとなり、需要家の手当てが活発だという新聞記事をみかけるが、市況の中に需給がひっ迫しているような話が出てこないのは何故か。	確かにオリンピック関連需要は好調であるが、中小物件需要が盛り上がりを受けているため全体的には需給ひっ迫感はみられない。鋼材については、コラムや高力ボルトなど品種によっては需給ひっ迫しているものがある。
審議 7	A重油について、建設物価の掲載価格と資源エネルギー庁の調査価格に違う動きがみられるのはなぜか	それぞれが別々に調査をしているので違いが見られることがあるが、調査時期や調査地域の違いが要因として考えられる。
審議 8	先々月、先月と高力ボルトの需給ひっ迫の説明があったが、今月はどうなっているのか。	需給ひっ迫は続いている。メーカーが増産をしているという情報もあるが、母材である特殊鋼線材の供給が限られており、需給ひっ迫を解消するまでには至っていない。
審議 9	異形棒鋼やH形鋼の過去3年間の価格動向をみると、年度末に価格が上昇している傾向がみられる。しかし、今年度は横ばい状態であり過去の傾向と違うのは何故か。	工事が年度末に比較的集中するので需要が増える傾向はみられる。ただし、鋼材価格の変動要因は需要だけではなく、原料価格の動向も大きな要因となる。今年度は鉄スクラップ価格がこのところ弱基調で、これが鋼材価格の上昇を抑えている要因となっている。
審議結果	「建設物価」3月号、「Web 建設物価」3月号、の価格動向に問題はなかった。	